


## 医療経済・社会科学 No.2

## 医療費と保険制度

## —— 日本の医療経済の構造を論じる

 **今日のゴール**：日本の医療費がなぜ増大し続けているのかを、**国民皆保険制度の構造・診療報酬の仕組み・高齢化・医療技術の進歩**という4つの要因から分析し、医師として医療経済の視点を持って政策論・倫理論述に使える力を身につける。

 この授業の問い

1. 日本の国民医療費は年間いくらか？そのうち高齢者（75歳以上）の割合は？
2. 「フリーアクセス」と「かかりつけ医制度」はなぜ医療費と関係するのか？
3. 「費用対効果（QALY・ICER）」の概念を使って、高額薬剤の保険適用を論じるとはどのようなことか？

📊 基本データ（2023年度・厚生労働省）

項目	数値・内容
国民医療費（総額）	約46兆円（GDP比：約8.5%）
75歳以上（後期高齢者）の医療費割合	全体の約38%（人口比は約15%）
1人あたり医療費（75歳以上）	約92万円/年（64歳以下の約5倍）
医療費の財源	保険料（約50%）・公費（税金 約38%）・患者自己負担（約12%）
自己負担割合	現役世代3割・70～74歳2割・75歳以上1割（一定所得以上は2～3割）

🔑 医療費増大の4大要因

1. **高齢化**：65歳以上人口比率29%（2023年）→ 2040年には35%超の見込み
2. **医療技術の高度化**：高額薬剤（免疫チェックポイント阻害薬・遺伝子治療）・高額機器の普及
3. **フリーアクセスの弊害**：患者が大病院に直接受診→大病院の外来が過負荷→医療費増大
4. **慢性疾患の増加**：糖尿病・高血圧・慢性腎臓病など、長期治療を要する疾患の患者数増加

## 採点者の視点

## 採点者はここを見ている —— 医療費・保険制度・医療経済で合格答案はこういう「構造」をしている

## ① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

**「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」**

医療費・保険制度・医療経済では、*国民皆保険制度の経済学的根拠*が答案の質を大きく左右します。

## ② 医療費・保険制度・医療経済で採点者が見ているポイント

「情報の非対称性と逆選択の観点から公的保険の必要性を論じた答案」が採点者に「医療経済を理解している」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

## ③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

## 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所